

SEED (シード)

Vol.018
2023.11月

実りの秋、令和5年度「駒大生社会連携プロジェクト」もさまざまな取り組み実績が報告されています。今回は4団体の広報担当者がレポートをしてくれました。

【SDGs部門】医療健康科学部 村田 渉先生プロジェクト活動報告 学会発表・オータムフェスティバルでの体験型学習をおこないました。



10月27日～29日に開催された第51回日本放射線技術学会秋季学術大会において、駒澤大学からは田村さんと蓮池さんが発表を行いました。

予想していたよりも沢山のご質問をいただいたことや面白かったとのご感想をいただいたことなど高い興味・関心が得られ、実りのある発表となりました。

また11月4日・5日に開催されたオータムフェスティバルにおいて、“偏光板で分かる！レントゲン画像の仕組み”、“放射線防護学習用カードゲーム「放射線お化けから身を守ろう！」”の2つの発表と共に実際に教材を用いた体験型学習を実施しました。

小さい子供たちから保護者の方々まで幅広く楽しみながら放射線防護の三原則や放射線画像の仕組みを知っていただける機会となりました。



【世田谷区部門】経済学部 松本 典子先生プロジェクト活動報告

まちのキーパーソンから学ぶ

「せたがやのコミュニティ活性」に関する基礎研究：講演＆交流会開催

まちのキーパーソンから学ぶ「せたがやのコミュニティ活性」に関する基礎研究の第2回目として、10月4日に、尾山台のタタハウスにて、日本福祉大学社会学部の両角達平さんをゲストにお呼びして講演＆交流会を行いました。今回の講演テーマは「スウェーデンの若者とまちづくり」で、20名ほどの参加者へお話していただきました。

両角さんからは、日本の若者は社会参加についての意識が低いというお話を伺いました。私も選挙に行ったことがなかったため、ギクリとしました。日本の若者は公的なことよりも私的なことに興味が高いため、社会参加する若者が少ないのです。

それに対し、スウェーデンは「誰も置き去りにしない世界の実現」を目指していることから、若者の投票率が85%を超えていて、社会参加の意識が高いといえます。また、スウェーデンの学校は、学校選挙で若者が「影響力」を発揮できる場が形成されています。スウェーデンの学校では生徒組合という組織が存在します。これは学校側が設置を義務付けている組織ではなく、生徒たち自らが設置した組織です。この組織の設置によって、若者が大人に近づくことができるだけでなく「市民」になることができます。小さな社会でやりたいことを実行することが、若者の社会参画において重要であると両角さんは言います。



講演を聞いて、日本の若者も、私的なことよりも公的なことに目を向けさせることが社会参加の意識につながるのではないかと思います。



【世田谷区部門】文学部 李 妍焱先生プロジェクト活動報告

インタビュー調査を継続中！

11月よりゲストを招いたダイアログ企画が始動します。

11月に差し掛かりインタビュー調査も1日ではよいよ最後となりました。この日はシモキタ園芸部の川崎さんのもとを訪れ、お話をさせていただきました。調査開始時に比べ相互のやり取りがスムーズに行われるようになり、多くのことを吸収すると同時に私たちとしても成長を感じられる機会となりました。



そして、今月は2日に第一回ダイアログを無事開催することができました。これまでインタビューに協力していただいたお二方をふかさわの台所にお招きし、対談を行ってもらうというのですが、なんとこの日は対談する方の他にも台所が溢れ返るほどのゲストの方が来てくださいました。これまで以上に雰囲気良く、また様々な発見があり、想像以上の大成功をおさめることができました。

これからの活動としては調査のまとめと第二回へと続くダイアログの開催を予定しております。いよいよ大詰めですが、取り組んできたこと、学んできたこと一つ一つが実りになればいいなと思っております。



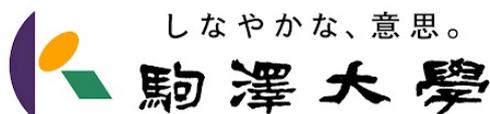
【世田谷区部門】経営学部 小野瀬 拓先生プロジェクト活動報告 「せたがやeカレッジ」チラシを制作しました！

世田谷区教育委員会が運営する「せたがやeカレッジ」リニューアルに伴い、駒澤大学小野瀬ゼミナールの学生がチラシを制作することとなりました。



計31作品のなかから学内選抜で7作品にしぼり、さらにそのなかから選ばれたのが工藤 彩名さん（市場戦略学科 3年・山手学院高等学校）のデザインでした。

駒澤大学の社会連携に関する最新情報は、
社会連携センターのホームページでご案内しております。 → 社会連携センター「[お知らせ](#)」



発行：駒澤大学
学術研究推進部
社会連携センター
(2023.11月)